

SUMAいるタイムズ

第 15 号

発刊:令和8年5月

発行:須磨区医療介護サポートセンター
〒654-0047

須磨区磯馴町6丁目1番4号 須磨区医師会内
TEL:078-735-0041 FAX:078-735-0194



サポートセンター長よりご挨拶

ふじわら内科クリニック院長 藤原 俊樹先生



このたび須磨区医療介護サポートセンターのセンター長を拝命いたしました藤原俊樹と申します。

須磨区における医療介護を支えていただいております関係者の皆様には心より感謝と敬意を申し上げます。

私は鳥取県の山間部に生まれ、島根県で医師としての経験を積みました。研修医の頃から在宅医療に携わる機会に恵まれ、なかでも私の祖母を自宅で見送った経験は現在のクリニックで在宅診療を行っている原点となっております。

近年、社会の高齢化に伴い、医療や介護のニーズはますます多様化し、ひとつの職種や機関だけでは支えきれない時代となっております。必要な支援を必要な時に届けるためには、医療と介護、さらには地域のさまざまな関係機関が互いに顔の見える関係を築き、切れ目のない連携を実現していくことが不可欠であると考えております。

須磨区医療介護サポートセンターは、地域における連携の要（かなめ）として、多職種・多機関をつなぐ役割を担っております。現場の皆様の声に耳を傾けながら、相談しやすく、頼りにされる拠点づくりに努めてまいります。関係職種の皆様と力を合わせ、地域における支援の輪を広げ、誰一人取り残されることのない体制づくりに尽力して参る所存でございます。

皆様のご支援、ご指導を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

研修報告

令和7年度研修報告

「BCP（事業継続計画）のブラッシュアップ研修」

日時：令和7年9月6日(土) 14:00~16:00
場所：須磨区役所
参加者：57名(会場22名、WEB35名)

講師：烏野 猛氏（びわこ学院大学 教育福祉学部 教授）

烏野先生は、福祉・介護分野におけるリスクマネジメントの第一人者としてご活躍され、介護施設等におけるBCPの作成、見直し支援を5000件以上手掛けられています。

今回の研修では、発災時に事業継続できるように各事業所のBCPを見直す機会や、発災時に備えて平時から在宅医療・介護連携を深める場となりました。



烏野 猛氏

① BCP（業務継続計画）の義務化について

令和6年度から、医療・介護・障害福祉のすべての事業所でBCPの策定が義務化され、社会福祉法人が運営する子ども関連の施設（児童養護施設・保育園・幼稚園など）も、義務化の対象となっています。BCPを策定していない場合は減算の対象となり、能登半島地震の影響で1年間猶予されましたが、令和7年4月から減算が適用されます。

100床規模の施設では、年間で約1000万円以上の損失となる例も報告されています。

現在、多くの事業所でBCPは作成されているものの、「他施設との連携」や「計画と実績の整合性」が不十分である点が課題とされています。

② 個別避難計画の進捗状況

個別避難計画は市町村の努力義務ですが、全国的に進捗は限定的であり、現時点で徹底して取り組んでいるのは静岡県が中心となっています。

③ 地理的リスクを踏まえた備えの重要性

災害時には、同じ地域の施設同士が同時に被災する可能性があります。そのため、自施設の地理的リスクを把握したうえで、異なるリスクを持つ施設と連携することが重要です。

1) 活用できる主なツールは以下のとおりです。

- 重ねるハザードマップ（液状化リスクは非対応）揺れやすさ・液状化・浸水・土砂災害を数値化するWebツールGoogle Map × Excelで職員・利用者の居住地を可視化

2) BCPでは次のような検討が求められます。

- 気象庁情報と市町村長の警報を区別した発動基準の設定
- 災害リスクの異なる施設との連携先選定
- 水害が金曜深夜～土曜早朝に発生しやすい（75%）ことを踏まえた夜勤・週末対応の検討などが求められます。

「令和6年度ACP研修会振り返り」

日時：令和7年10月15日(水) 13:30~15:30
場所：須磨区北須磨支所
参加者：67名

事例：自分の意思表示が出来なくなった、アルツハイマー型認知症の女性の今後の生活

昨年度のACP研修会を振り返り、その後価値観カードゲームを体験し、事例検討会を行いました。事例に対する「過去に何が出来たか」「これから何が出来るか」のポイントで意見交換をし、困難事例をもとに話し合いを行ったことで、多様な意見を交流する機会になりました。



「認知症の方の支援」～在宅復帰へのアプローチ～

講師：平間 真澄氏 認知症看護認定看護師
(北須磨訪問看護・リハビリセンター)

事例提供者：小林 雄索氏 (グリーンリーフ高倉 支援相談員)
事例「その人らしさを大切にしたい、在宅復帰に向けた取り組み」

日時：令和8年2月7日(土) 14:00~16:00
場所：須磨パティオホール
参加者：43名

認知症の利用者を「認知症の人」として一括りにするのではなく、一人ひとりのその人らしさを大切にしながら支援することを学ぶことが出来ました。事例を用いて、認知症利用者への支援について言語化し、他職種の視点を理解できるよう、グループワークを実施しました。また、在宅医療介護の専門職が、認知症認定看護師から支援方法を学び、認知症の方が住み慣れた地域で過ごすことが出来るよう、意見交流しました。多職種で事例検討することで、多職種連携の重要性を感じて頂けました。



平間 真澄氏

【質疑応答】

Q1. 受け入れ限界と転院の判断

- ・認知症の程度だけでなく個別アセスメントが重要。
生活に大きな支障や専門的医療が必要な場合は転院を検討。

Q2. 徘徊への対応

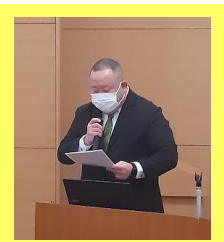
- ・理由の把握が第一。一緒に歩くなど安心できる環境づくりが有効。
家族疲弊時はショートステイも活用。

Q3. 医療と介護の連携の壁

- ・情報ギャップが課題。早期からケアマネと共有し生活歴・家族意向を把握することが重要。

Q4. 地域資源の活用

- ・独居高齢者には配食・新聞店・近隣住民など多様な地域資源を活用し孤立を防ぐ。



小林 雄索氏

「オーラルフレイルの特徴と予防」

日時：令和7年10月30日(木) 18:00~19:00
場所：須磨区医師会館メインホール
参加者：25名

歯科医師と多職種との連携を深めるために研修を実施しました。

講師：須磨区歯科医師会

田中 佑典氏 (田中歯科医院)	「口腔ケアの大切さと難しさ」
中西 聡一氏 (なかにし歯科大人子供歯科室)	「様々なエビデンス」
谷山 健太郎氏 (谷山歯科クリニック)	「お口の中に現れる様々な症状」
山本 貴史氏 (山本歯科医院)	「誤嚥性肺炎」
佐々木 隆行氏 (ササキデンタルオフィス大丸須磨院)	「オーラルフレイル」

【歯科と全身の健康・口腔ケアのポイント】

- ・口腔内の細菌増加は誤嚥性肺炎のリスクを高め、日々の口腔ケアで大幅に低減できる。
- ・歯周病は慢性炎症で、動脈硬化など全身疾患の発症に関与する可能性がある。
- ・歯を失い義歯を使わない場合、認知症リスクは約1.9倍、義歯使用で約4割抑制。
- ・転倒リスクも義歯で半減。咀嚼は脳を刺激しADL向上に寄与。
- ・ペースト食中心は嚥下機能低下を招く。
- ・不顕性誤嚥はむせずに起こり、発見が遅れやすい。
- ・オーラルフレイルの初期サインは舌機能低下・咀嚼障害・滑舌低下・乾燥など。体操やマッサージが有効。
- ・歯周病、舌苔、口腔乾燥は早期対応が重要。保湿ジェルは塊残留に注意し、拭き取り必須。

2024年度～2025年度 粋・生きセミナー 2年間のまとめ

「あなたが大切にしていることって、何ですか？」

～価値観カードで楽しみ、これからどう生きるか考えてみましょう～

【開催回数】 延べ16回

【参加者数】 延べ280名

【開催場所】 神の谷、菅の台、花谷、妙法寺、南落合、西落合、落合団地、東落合、奥妙法寺、北須磨、月見山、小寺など

【参加者の声】

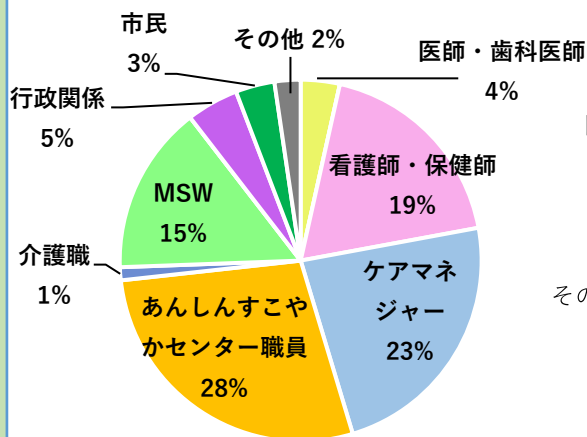
- ・自分の大切にしていること（価値観）が分かった。
- ・新たに自分の先を考えさせられた。
- ・みんな当てはまる事ばかりで絞り切れない。
- ・心がけていきたい。これからが楽しみ
- ・老後の過ごし方の再確認ができた。



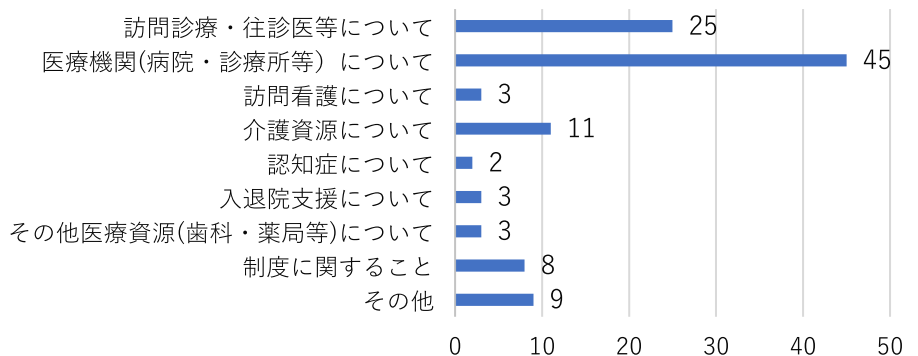
令和7年度 須磨区医療介護サポートセンター 業務報告

令和7年度の相談件数は、88件、あんしんすこやかセンターからの相談が増えています

【令和7年度相談職種】

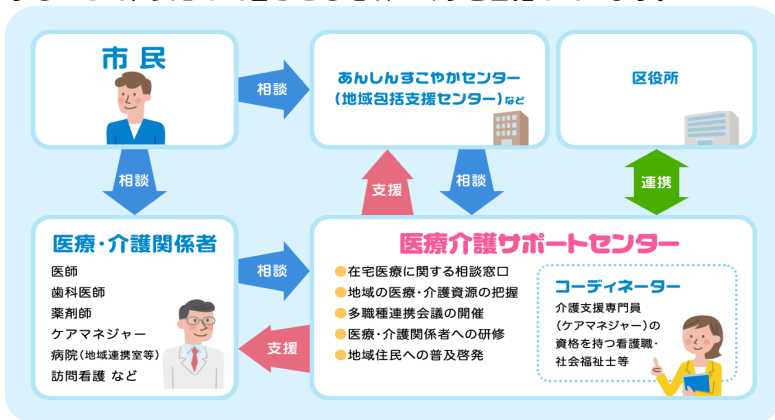


【令和7年度相談内容(複数選択)】



医療介護サポートセンターについて

「医療介護サポートセンター」は、地域の医療・介護関係者の連携をサポートすることで、安心して暮らせる地域づくりを目指しています。



お気軽にご相談下さい。

医療・介護関係者からの在宅医療に関する相談に対応しています。

市民からの介護に関するご相談は、あんしんすこやかセンターをご案内下さい



かかりつけ医や介護支援専門員といった、医療・介護等のサービス提供者からの在宅医療サービスに関する相談に対して、必要な情報提供、支援・調整を行います。

相談項目

- ・訪問診療や往診を行う医師等の紹介
- ・訪問看護などの在宅医療サービスに関する相談
- ・在宅医療の後方支援（病状急変時の一時入院先の確保等）に関する相談
- ・在宅医療に関する一般的な相談 等

サポートセンターからのお知らせ

今後の研修の開催予定については、ホームページをご覧ください。

